

STAGE+を楽しむ(196)(HP 収載)  
—ショルティのブルックナー交響曲 7 番—

1. 始めに

前報(195)に引き続き、STAGE+のショルティのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は STAGE+のショルティのブルックナーの交響曲第 7 番の演奏を選びました。

ショルティとシカゴ交響楽団が奏でるブルックナーの交響曲第 7 番  
ノヴァーク版

収録日: 1978 年 9 月 5 日

20 世紀最高の指揮者のひとりであるサー・ゲオルグ・ショルティ。彼とシカゴ交響楽団との素晴らしいパートナーシップは、1954 年、ラヴィニア音楽祭で初めて共演してから始まりました。その後、何度か共演を重ね、1969 年にショルティは音楽監督に就任。22 年間という驚異的な長きにわたってこのポストを務めています。そんなタッグによるブルックナーの交響曲第 7 番は、オペラ指揮を得意としたショルティならではのドラマ性が紡がれ、コントラストと躍動感に満ちています。

演奏:

シカゴ交響楽団

指揮:

サー・ゲオルグ・ショルティ

曲目:

アントン・ブルックナー 交響曲第 7 番ホ長調



### 3. 試聴の経過

前回に引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。

本年はブルックナー生誕 200 年ということで、演奏会やアーカイブの公開が続いています。

今回は、そのようなアーカイブからショルティ指揮シカゴ交響楽団のブルックナーの交響曲第 7 番を試聴します。

1978 年ロンドンの Royal Albert Hall での演奏の収録です。

この曲の爽やかな弱音から重層的で複雑な音の構成の曲の演奏ですが、爽やかな弱音は端正な演奏で、各楽章の最後の盛り上がりは、ショルティらしいエネルギッシュで壮大な展開の演奏となります。



### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用した結果、ショルティらしい端正で爽やかな表情からエネルギーで壮大な表情までの演奏が聴けました。

以上